

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第2回高松市コンパクト・エコシティ推進会議
開催日時	平成23年10月25日(火) 10時00分～11時55分
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議 題	・ コンパクト・エコシティ推進に向けた取組について ・ その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	嘉門会長, 大谷委員, 高塚委員, 土井委員, 竹内委員, 古川委員, 松野委員, 辻委員, 坂本委員, 宮崎委員, 柘植委員, 中橋委員, 小西委員, 高尾委員, 松岡委員 (欠席委員なし)
傍聴者	なし(定員20名)
担当課および連絡先	都市計画課コンパクト・エコシティ推進室 087-839-2456

会議経過および会議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

(1) コンパクト・エコシティ推進に向けた取組について

コンパクト・エコシティ推進に向けた取組について、資料1に基づき、事務局より説明し、次のとおり意見があった。

(会長)

コンパクト・エコシティ推進に向けた取組の考え方は、都市計画だけというよりは、まちづくり全般に関わる話である。少子高齢化などの社会的条件の下で、品格ある高松市をどう提案していくか。

資料1の8ページの基本方針と施策の方針については、これまでの議論で、ここから外れる意見はあまりなかったと思うので、委員の了解を得られるものとした。

9ページ以降の集約拠点における取組と集約拠点外における取組、それぞれの取組について意見をいただきたい。

(委員)

基本方針、施策の方針、協議のポイントが資料の中で集約されているが、多岐にわたっており、これらの全てを議論していたのでは推進会議の中で終わりそうもない。推進会議と併せて、有志でのワーキンググループを作り、ワーキンググループで細部を検討してはどうか。

審議経過および審議結果

(会長)

私は、集約化をスマートシュリンクと言っているが、コアを作りながら集約化していかないといけない。

ワーキンググループを作るという提案について、他委員はどのように考えるか。

(委員)

8月から別のワーキンググループを市民を集めて行っている。インターネットでのソーシャルネットワークであるフェイスブックだけで構成したのだが、30人ぐらい集まった。明日また、コミュニティについて勉強しようということで、ワーキンググループを行う予定にしている。ワーキンググループと推進会議を同時にやることは、時間的に困難ではないか。ゆっくりしていたら間に合わないことを危惧している。このメンバーでやるのは難しいと思うが、やり方を変えて行う方法があるのではないか。

(会長)

先の委員からの提案は、全員でやるということではなく、有志でということである。

(委員)

発言にあった、フェイスブックのワーキンググループは存じているが、私が提案したワーキンググループは、推進会議のメンバーの中で何人か時間のある委員が集まって行いたいと考えている。ワーキンググループを大きくするとこの話はまとまらないと思う。

やらなければいけないのは、まず、まちなかに人を呼ぶこと。その後、周辺拠点、さらにその周辺と、この3つのフェーズの中でそれぞれ10項目の施策の方針がある。全部同じように埋める必要はないのだが、それで漏れがないかどうか確認できるような全体が見えたプロセスがないと何回集まっても終わりが見えないような気がする。

推進会議の中で、それぞれの分野、それぞれの意見があって、あとは事務局がまとめるということの繰り返しでは、最終的にでき上がったもののピントがぼやけた感じになるだろう。スピード感を危惧している。ワーキンググループで検討したものをベースに始めれば、この会議で右に行ったり左に行ったりということは少なくなる。まず素案、骨子の部分を作るワーキンググループを作り、半年後にはある程度の全体像を作り上げたい。専門知識を持つ方の意見は、必ず最終段階では必要になる。

(会長)

ワーキンググループについては前向きに検討いただきたい。

事務局から今日の推進会議での協議のポイントが挙げられており、ワーキンググループで議論する場合も参考になると思うので、具体策が提案されれば非常にありがたい。

(委員)

施策の方針は10項目あるが、高松市の中で既に進んでいる取組、これから着手しなければいけない取組、強弱があると思う。今回のコンパクト・エコシティの推進というのは、今までのことの整理ではなく、新しい突破口を見つけていかなければならない。その中で何に集中するのが一番いいのか、優先順位を絞り込んでいくのが議論の中心だと思う。それぞれの分野に既に専門の方がおられるので、密なやりとりをしながら、議論をしっかりと重ねていく、そういうプロセスが近道ではないか。

審議経過および審議結果

(委員)

ワーキンググループはざっくばらんなほうが正直な意見が出ると思う。自分たちの市は自分たちでよくするものだと思っており、自腹で、オフタイムでもいい。

市の一番の役割はインフラ整備である。道路を整備するというだけでなく、制度の整備、規制と緩和だと思う。一番大事なのは都市計画の見直しである。都市計画そのものの見直し、線引きをもう1回やり直したらよい。市街化調整区域を作ることによって、ここは活性化する、ここは活性化しない、ここには下水道は引かないということをはっきりできる。

他市の事例の中の1つでもすぐやってみるのがよい。

4ページの公共交通の利用促進に向けた社会実験は感心した。これはスピーディである。サンメッセから乗ってみたが、非常に便利がいい。太田駅にバスをうまく通している。

ちょいのりバスも乗ってみた。高松市の公共交通は、縦のラインの利便性があまりよくないと以前の会議で発言したが、横のラインをつなぐのは賛成である。ただし、実験であるので、終わって6カ月ぐらい過ぎると、あれはよかったという話になるような気がする。要望としては、案内板を出して周知されたい。そういう配慮をされれば利用が多くなるのでないか。

また、高松市と香川県宅地建物取引業協会と高松市連合自治会連絡協議会の3者で、「高松市における自治会への加入促進に関する協定書」行っている。NHKも不動産業者に手数料を支払い、受信契約をしている。新しくアパートに住む人に自治会加入を勧める、そういう手段を取るのはいいことである。

施策の方針のうち、9番の空家等の有効活用だが、空家を活用しようにも、個人情報保護の関係で誰が住んでいるのかわからない。ぜひ市のほうで、対応していただきたい。

(会長)

景観とか機能を維持するのに空家のままでは難しい。空家が活用できると効率的である。中古住宅の支援の事業もやっているのだから、空家を活用できるようなインセンティブのある施策もぜひワーキンググループで御提案いただきたい。

公共交通も実験が終わったら止まってしまうことを危惧している。PRを徹底して、アドバンテージを市民、あるいは市外から来た人にも理解してもらうことは重要である。

(委員)

公共交通について、社会実験の1つのポイントは、単にバスを走らせるだけでなく、それをレールアンドライド、パークアンドライドという形でいくつかの要素をつなぐことによって、非常に魅力的なシステムを作ろうということである。

8ページの10の施策方針については、縦割りで書かれているが、既にやっているものや議論したものが多数である。一番重要なのは土地の問題であるが、小学校跡地がいくつか出てきたが、それを生活支援や子育て支援、教育環境の充実に使っているだろうか。縦割ではなくて、1から10を組み合わせることによって、どのように相乗効果を出していくかが重要である。

また、個別に新しい施策を出しても、それ自体が持つ影響力は限られている。新しい施策を生み出すよりは、今ある施策を有効に活用することも重要である。

審議経過および審議結果

集約拠点に都市機能や居住人口を集めたいというが、果たしてこの施策を動かせる仕組み、制度、戦略があるのか。財政制度、税制度がそうなっているのか、いろいろ根本的な問題がある。

市各部局の施策を全て洗い出してもらい、コンパクト・エコシティを実現するという錦の御旗のもとに施策仕分けをやっていただきたい。今ある施策が本当にコンパクト・エコシティを支える施策になっているのかどうか整理した上で、新しい制度を出すなり、相乗効果を発揮できるようなものを考えるなりしないと、この推進会議が終わった後に何も残らない。この推進会議が終わっても、市の内部で実質的にずっと続いていくという仕組みを作っておくことが、この推進会議の1つの役割ではないかと思う。

(会長)

8ページの施策の方針は、相互に関連している話である。高松市には都市計画課だけでなく、いろいろな課があって行政が成り立っており、それぞれ各課の施策全てがコンパクト・エコシティに向いているわけではないと思う。しかしながら、将来の高松市としてのあり方はこれで行くしかないという意気込みが必要だと思う。市のそれぞれの課の取組について、目指すべき方向にきちんと向いているのかという評価は必要である。

(委員)

コンパクト・エコシティはこれから50年、100年というスパンで高松市の将来を決めてしまう非常に重要な案件だと思っている。

コンパクト・エコシティに向けた施策の検討に当たって、各部局と都市整備部の連携がどの程度取れているのか、各部局の認識はどの程度なのか。それを整理して調整をしていかないと、夢物語みたいな話ばかりができて、いざそれが各部局に行くと、そんな話は聞いていないということになるのが過去のパターンだと思う。例えば商店街は経済産業省、再開発事業は国交省、病院は厚労省、市場は農水省である。それぞれの分野の方になぜコンパクト・エコシティが必要なのかということを一から説明していくと時間がかかる。そういう轍を踏まないように、市全体として各部局がこのコンパクト・エコシティにどう関わるのか、その覚悟があるのかということからしっかりと固めてやったほうがいいと思うが、現在、各部局でコンパクト・エコシティにどの程度関わっているのか。

(事務局)

関係部局で、課長以下各担当と調整しているが、全庁的な調整にはもう少し時間が必要だ。ただ、スピード感は大事である。来月開催する庁内の推進本部会、これは市長を本部長とし、各部局長で構成している組織であり、また推進本部幹事会は各部局の関係課長で構成している。これらで意見集約をして、次回には市として踏み込んだ内容を提示したいと思っている。

(委員)

市長のリーダーシップを発揮し、全庁的な協力体制で取り組んでいただきたい。本当は都市整備部がリーダーシップを取って、各部局がここに集まり、これから取り組むのだということ整理していかなければいけないと思っている。

(会長)

審議経過および審議結果

この推進会議は、市の縦割に捉われることなく、市全体に提案していく性格のものである。スピード感を持ってワーキンググループをやるとういうのは、市の各部局の守備範囲を超えてやっていこうということであり、我々委員から提案したほうが市の内部で協議するよりもむしろ強力で垣根を取り払うことができるのではないかと期待している。

(委員)

高松の中心地が活性化し、その周辺の各自治会が活性化することは素晴らしいと思う。

デイサービスを受けている高齢者は体の調子が悪くなればショートステイに泊まることもできるが、デイサービスを受けていない方は行くところがない。大きな病院は救急車を呼んでもすぐ帰らされるなど独居高齢者の行き場所がないのが現状である。病院が交代で受け入れすることはできないか。

デイサービスを受けている方についても、ショートステイで泊まれる部屋は少ない。急に気分が悪くなった方を受け入れられる場所があったらよいというのが私の夢である。

10ページの子育て支援機能について、私どもは毎月コミュニティセンターで子育て支援活動を行っているが、20組ぐらいの親子が来る。コミュニティセンターは広くないので、空家を使いたい、空家の持ち主からは、なかなかよい返事をもらえない。行政で学校の空いたところなど、広い場所を提供してもらえないだろうか。

子育て支援活動に来ている20組の方たちはほとんどが自治会未加入者である。自治会加入者は保育所、保育園に入っている方が多いが、通勤族の方が行くところがなくて来る。それも併せて市で考えてもらいたい。

(会長)

市でも中心市街地だけに施策を集中しようと言っているわけではない。それぞれの拠点をうまく活性化していければよい。移動距離があまり長くなると問題が起こるが、良い事例として、参考になるのではないか。

(委員)

子育て支援機能の充実と、教育環境の充実は重なっているので、一緒に協議したほうがよい。学校の空き教室や商店街を核にして、小さい子どもから小学生、中学生、親も来るような施設があればよい。親が学ぶ場所にもなるし、中高生が赤ちゃんを見て、次の親になる教育もできる。さらに、地域の高齢者が来れば、問題になっている家庭教育の指導もできると思う。

コンパクト・エコシティは行政コストもコンパクトにしていくということが背景として大きくあると思う。新たにそこに予算をつぎ込んで何かをするというよりは、既存のものを置き換えていくほうが良いと思う。

例えば子育て支援で言うと、地域子育て支援拠点事業ということで保育園に併設されている地域子育て支援センターの予算と、私どもがやっている子育て広場の予算がある。モデルエリアとして小学校の空き教室を子育て拠点や地域の人たちの拠点にし、そこにかかる経費は保育園でやっている支援センターの予算を置き換える。それを実際にやってみるとどういった問題が発生するのか見えてくるのではないか。

子育ての拠点で言うと、横浜では区ごとに大きな拠点に国の補助が出るので予算をつけ

審議経過および審議結果

てやっている。集約拠点に指定された地域も横浜方式でできればよい。そのためには、既存の予算を取り上げてしまう形になることもあるので、そのしがらみをどう乗り越えていくかということも課題になる。

(会長)

実施している活動に対して、それを阻害するのでは何をしているのかわからない。協働でできればいいのだが、コミュニティ同士の活動というのはなかなか難しい。融合して統合的にやろうとすると、どこかが勝ってどこかが負けてしまう。全部がウイン・ウインの関係になるようにしたいが、そこはやり方次第だと思う。

(委員)

全部がウイン・ウインになるのは難しい。既存の予算をもらっているところが既得権のようにになっている。コストと効果を比較し、時には切り捨てなければいけないこともあるかもしれない。

(会長)

実際、事業を行うと、必ずしもすべてがうまくいくことはない。しかし、将来の目的を間違えずにやれば、理解が得られるのではないか。将来を見越した上で、市役所の部局間の垣根を乗り越えてやらなければいけない。具体化してやっていくことが重要であり、失敗した場合には修正すればよいと考えるので、ワーキンググループで議論を深めていく必要がある。

ワーキンググループの部会長は柘植委員にお願いできればと考えている。参加できる委員は参加するという形式で部会長以下、コアメンバーを作って活動いただきたい。

推進会議の設置要綱第7条により、コンパクト・エコシティ推進会議のもとにワーキング組織、研究会を設置することについてお諮りする。ワーキンググループを設置することに承認いただけるか。

(異議なし)

(会長)

部会長を中心に、事務局とも協議し、随時開催いただきたい。

(会長)

ワーキンググループの活動、議論の結果については、推進会議で報告をしていただく。

事務局は、運営をサポートするとともに、全庁的に施策の洗い出しを検討されたい。市当局もワーキンググループの活動を支援するようお願いする。

(委員)

施策方針の10分野それぞれの市当局にこちらから話をした上でないと組織は動かないだろう。ワーキンググループの運営について、事務局のサポートを受けてやっていきたい。

(会長)

全庁的な協力体制を作られたい。今日は交通政策課長を始め、各部局の課長も推進会議に出席しているので、我々委員の思いは理解されたのではないか。

(委員)

審議経過および審議結果

市民意識調査は、年代別集計でないと意味がないのではないか。

(事務局)

地域別、年齢別、男女別など、クロス集計を予定しているが、まだ公表できる段階に至っていない。集計が出来次第、結果を提供したい。

(委員)

市民意識調査はそもそもの母数のうち、20代～30代が1/4しかない。中長期で見たときに中心で動かなければならない年齢層がサイレンスマジョリティとなっており、その意識が反映されていない。

今回の集計結果では、持ち家志向が8割とあるが、20代、30代の方は持ち家志向よりも、ライフスタイルに合わせて住居を変えることに違和感を感じていない。車を持たないという人も少なくない。そういう人たちの数字が反映されているかどうかで大きく舵取りが変わってくる。

通常のアンケート形式でもある程度結果が出てくるが、ペーパーに反映されにくい世代なので、フェイスブックなどのソーシャルメディアを使うとか、声を吸い上げるための工夫も必要であるので考慮されたい。

(会長)

香川大学の学生に聞くと20代の学生の、また、香川高専なら15歳から20歳までの意見が入ってくる。多くなくてもよいが、アンケートを配って若い人の声を聞くこともできないことはない。偏ってしまうとよくないが、ソーシャルネットワークを使うのも1つの手法であるので今後検討されたい。

(委員)

スピーディであることは大事である。全国でも地域の再生事業は止まっているところがほとんどであり、地方都市の再生を全国にアピールできるような進め方をしていただきたい。

具体的にやってみることは非常に大事なことである。優先順位をつけてモデル地区を実際に想定する。全国的に有名なNPOわははネットの中橋理事長の活動など、そういう種がいくつか高松市にあるので、そういう既存のものをうまく育て、モデル的なものを作って、その中で出てきた課題を解決していく。具体化ということにこだわってワーキンググループの活動を進めていただきたい。

(委員)

せっかくのチャンスなので、高松市を日本一の市にしたいと思っている。高松市の順位は下から数えたほうが早いというのが大部分の市民の意識である。全庁で実施する内容なので、これを機会に絶対に日本一にするという意気込みで私はやっている。

身近なお手本は県にある。県が「うどん県。それだけじゃない香川県」というCMを作ったところ、サーバーがダウンするぐらいのアクセスがあった。

合同庁舎がもう1つできると高松市は国の行政機関の集積度が高くなる。高松空港は四国で一番山側にあり、災害が少ない。これらの強いところを引きたて、高松市は下から数えたほうが早いという意識を払拭して、日本一の市になるという気構えで、すべてにわた

審議経過および審議結果

って取り組みたい。高松市は住みやすく、歴史、文化、その他、様々な資源があるので、新しいものを作るばかりでなく、既存のものを組み合わせるなど、英知を結集し、レベルの高い考えを皆さんにお願いしたい。

(事務局)

ワーキンググループについて、事務局も協力させていただくので、委員にはよろしくお願ひしたい。市の内部でも、本日の提言、意見を各部局長に報告し、全庁的に事業・施策の検討を進め、ワーキンググループの意見と併せ、第3回推進会議に提示させていただきたい。

(3) その他について

事務局より、次回会議について、平成24年2月10日午前10時の開催予定とすることを提案し、委員全員が了とした。

その他、委員から特に意見はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上